



2022年7月29日

各 位

会 社 名 株式会社ビジョナリーホールディングス
代表者名 代表取締役社長 星崎 尚彦
(コード：9263 東証スタンダード市場)
問合せ先
役職・氏名 取締役執行役員CFO 三井 規彰
電 話 03-6453-6644 (代表)

(再訂正)「2021年4月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」

の一部再訂正に関するお知らせ

2021年6月21日付、2021年7月14日付にて公表いたしました「2021年4月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」、及び「(訂正・数値データ訂正)「2021年4月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正に関するお知らせ」につきまして、一部再訂正すべき事項がございましたので、下記のとおりお知らせいたします。
なお、訂正箇所には下線を付しております。

記

1. 訂正理由

2022年4月期の会計監査人による監査過程におきまして、記載の内容に一部訂正が生じたので、提出済みの決算短信を訂正させていただくものであります。

なお、今回の訂正による経営成績への影響はありません。

2. 訂正の箇所

訂正箇所は_____線を付して表示しております。

(訂正前)

※2021年7月14日付「(訂正・数値データ訂正)「2021年4月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正に関するお知らせ」の4頁～5頁

(1) 当期の経営成績の概況

(省略)

1. 小売事業

当社グループの中核事業である小売事業につきましては、眼の健康寿命の延伸をテーマに、従来の25倍、0.01ステップでの度数決定を可能とする精密測定機器の導入を進めているほか、視力だけでなく生活環境や眼の調節力も考慮した「トータルアイ検査」や、いつでも最適な状態のメガネに調整する「スーパーフィッティング」、購入後の充実したサポートを提供する「HYPER保証システム」、いつでも特別価格でフレーム、レンズを交換いただける「こども安心プラン」、特別価格でレンズやフレームを何度でも交換できるメガネのサブスクリプションプラン「メガスク」、「メガネと補聴器の出張訪問サービス」、頻繁に使うコンタクトレンズ用品をまとめて定期的にご自宅にお届けする「コンタクト定期便」等、多様かつ画期的なサービスを提供しております。

また、コロナ禍により外出を控えたい方などに電話でメガネ、コンタクトレンズ、補聴器に関するあらゆる相談に対応する遠隔サービス「お家でコンシェルジュ」を開始したほか、コンパクト検査機器による「リモート視力検査システム」を眼鏡チェーン店として初導入し、完全リモートによる度付きメガネの提供サービスを開始するなど、遠隔接客サービスの強化にも努めております。

なお、2020年5月以降、営業時間短縮など店舗採算性を重視した店舗運営を行うほか、1店舗あたりの収益力増強に資する店舗展開を推進しております。期首に計画した53店舗の退店（移転、集約・統合含む）を加えた、計64店舗（うち移転9店舗）の退店を行うとともに、17店舗を新規出店し、2021年4月末時点の店舗数は322店舗（前年同期末比47店舗減）となったことから、売上高合計は前年同期の実績を下回ることになりましたが、1店舗あたりの収益力は増強されました。

この結果、小売事業における売上高は24,457百万円（前年同期比4.4%減）、セグメント利益は1,397百万円（前年同期比165.4%増）となりました。

2. 卸売事業

卸売事業につきましては、世界トップブランドのアイウェアを手掛けるマルコリン社（イタリア）の日本総代理店である株式会社 VISIONIZE を中心に市場のアイケア・アイウェアに対する多様なニーズへの対応に取り組んでおります。

この結果、売上高は855百万円（前年同期比18.6%減）、セグメント損失は80百万円（前年同期は4百万円のセグメント損失）となりました。

（省略）

（訂正後）

（1）当期の経営成績の概況

（省略）

1. 小売事業

当社グループの中核事業である小売事業につきましては、眼の健康寿命の延伸をテーマに、従来の25倍、0.01ステップでの度数決定を可能とする精密測定機器の導入を進めているほか、視力だけでなく生活環境や眼の調節力も考慮した「トータルアイ検査」や、いつでも最適な状態のメガネに調整する「スーパーフィッティング」、購入後の充実したサポートを提供する「HYPER保証システム」、いつでも特別価格でフレーム、レンズを交換いただける「こども安心プラン」、特別価格でレンズやフレームを何度でも交換できるメガネのサブスクリプションプラン「メガスク」、「メガネと補聴器の出張訪問サービス」、頻繁に使うコンタクトレンズ用品をまとめて定期的にご自宅にお届けする「コンタクト定期便」等、多様かつ画期的なサービスを提供しております。

また、コロナ禍により外出を控えたい方などに電話でメガネ、コンタクトレンズ、補聴器に関するあらゆる相談に対応する遠隔サービス「お家でコンシェルジュ」を開始したほか、コンパクト検査機器による「リモート視力検査システム」を眼鏡チェーン店として初導入し、完全リモートによる度付きメガネの提供サービスを開始するなど、遠隔接客サービスの強化にも努めております。

なお、2020年5月以降、営業時間短縮など店舗採算性を重視した店舗運営を行うほか、1店舗あたりの収益力増強に資する店舗展開を推進しております。期首に計画した53店舗の退店（移転、集約・統合含む）を加えた、計64店舗（うち移転9店舗）の退店を行うとともに、17店舗を新規出店し、2021年4月末時点の店舗数は322店舗（前年同期末比47店舗減）となったことから、売上高合計は前年同期の実績を下回ることになりましたが、1店舗あたりの収益力は増強されました。

この結果、小売事業における売上高は 24,457 百万円（前年同期比 4.4%減）、セグメント利益は 1,270 百万円（前年同期比 166.4%増）となりました。

2. 卸売事業

卸売事業につきましては、世界トップブランドのアイウェアを手掛けるマルコリン社（イタリア）の日本総代理店である株式会社 VISIONIZE を中心に市場のアイケア・アイウェアに対する多様なニーズへの対応に取り組んでおります。

この結果、売上高は 855 百万円（前年同期比 18.6%減）、セグメント利益は 46 百万円（前年同期比 4.2%増）となりました。

（訂正前）

※2021年7月14日付「訂正・数値データ訂正」 「2021年4月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」の一部訂正に関するお知らせ」の16頁～17頁

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

（省略）

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報 前連結会計年度(自 2019年5月1日 至 2020年4月30日)

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注1)	連結財務諸 表計上額 (注2)
	小売事業	卸売事業	EC事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	25,591,060	1,051,409	685,047	27,327,517	10,885	27,338,403	—	27,338,403
セグメント間 の内部売上高又 は振替高	3,038	88,242	—	91,281	—	91,281	△91,281	—
計	25,594,098	1,139,652	685,047	27,418,798	10,885	27,429,684	△91,281	27,338,403
セグメント利益 又は損失 (△)	<u>526,519</u>	<u>△4,975</u>	147,346	668,891	△72,201	596,689	△808,924	△212,234
その他項目								
減価償却費	414,621	4,761	8,219	427,602	15,933	443,536	300	443,836
のれんの償却 費	118,832	182,963	—	301,795	—	301,795	—	301,795

（注） 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、ウェアラブル端末事業等を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益又は損失(△)の調整額△808,924千円は、セグメント間取引消去54,157千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△863,081千円であり、その主な内容は親会社本社の人事総務部門等に係る一般管理及び子会社の役員報酬であります。

(2)減価償却費の調整額は、全社資産に係る減価償却費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2020年5月1日 至 2021年4月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注1)	連結財務諸 表計上額 (注2)
	小売事業	卸売事業	EC事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	24,457,602	855,939	736,872	26,050,413	8,956	26,059,370	—	26,059,370
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	28,878	136,606	—	165,485	—	165,485	△165,485	—
計	24,486,481	992,546	736,872	26,215,899	8,956	26,224,855	△165,485	26,059,370
セグメント利益 又は損失 (△)	1,397,488	△80,438	126,008	1,443,058	△14,077	1,428,981	△1,075,658	353,322
その他項目								
減価償却費	440,540	2,572	9,732	452,845	2,098	454,943	732	455,676
のれんの償却 費	62,250	122,099	—	184,350	—	184,350	—	184,350

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、ウェアラブル
端末事業等を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失 (△) の調整額△1,075,658千円は、セグメント間取引消去28,711千
円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,104,370千円であり、その主な内容は
親会社本社の人事総務部門等に係る一般管理及び子会社の役員報酬であります。

(2) 減価償却費の調整額は、全社資産に係る減価償却費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(訂正後)

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(省略)

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 2019年5月1日 至 2020年4月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注1)	連結財務諸 表計上額 (注2)
	小売事業	卸売事業	EC事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	25,591,060	1,051,409	685,047	27,327,517	10,885	27,338,403	—	27,338,403
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	3,038	88,242	—	91,281	—	91,281	△91,281	—
計	25,594,098	1,139,652	685,047	27,418,798	10,885	27,429,684	△91,281	27,338,403
セグメント利益 又は損失 (△)	476,964	44,579	147,346	668,891	△72,201	596,689	△808,924	△212,234
その他項目								

減価償却費	414,621	4,761	8,219	427,602	15,933	443,536	300	443,836
のれんの償却費	118,832	182,963	—	301,795	—	301,795	—	301,795

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、ウェアラブル端末事業等を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益又は損失(△)の調整額△808,924千円は、セグメント間取引消去54,157千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△863,081千円であり、その主な内容は親会社本社の人事総務部門等に係る一般管理及び子会社の役員報酬であります。

(2)減価償却費の調整額は、全社資産に係る減価償却費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2020年5月1日 至 2021年4月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注1)	連結財務諸 表計上額 (注2)
	小売事業	卸売事業	EC事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	24,457,602	855,939	736,872	26,050,413	8,956	26,059,370	—	26,059,370
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	28,878	136,606	—	165,485	—	165,485	△165,485	—
計	24,486,481	992,546	736,872	26,215,899	8,956	26,224,855	△165,485	26,059,370
セグメント利益 又は損失(△)	<u>1,270,611</u>	<u>46,438</u>	126,008	1,443,058	△14,077	1,428,981	△1,075,658	353,322
その他項目								
減価償却費	440,540	2,572	9,732	452,845	2,098	454,943	732	455,676
のれんの償却 費	62,250	122,099	—	184,350	—	184,350	—	184,350

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、ウェアラブル端末事業等を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,075,658千円は、セグメント間取引消去28,711千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,104,370千円であり、その主な内容は親会社本社の人事総務部門等に係る一般管理及び子会社の役員報酬であります。

(2)減価償却費の調整額は、全社資産に係る減価償却費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

以上